

2021年度

明星幼稚園

1. 園の教育目標

よいこの育成

- 自ら考え主体的に行動できる。
- 周りの人の気持ちがわかり集団生活の中で生きる力を身につける。

2-1. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画(全体事業計画)

(1)就学に向けて

小学校就学に向けて、確かな学力につながる学びの芽生え、健康・基礎体力につながる「生活習慣・運動」を身に付け、社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」及び「協同の精神」の芽生えを促します。

(2)一貫教育の推進

明星小学校との連携事業を活用し、幼小合同研修会において相互理解を深め、就学前教育を施し、就学へのなだらかな移行を目指し、学内進学者の増加へと結び付けます。

(3)教育目標達成に向けて

保育の特色（カリキュラム・ルーブリック評価・外部団体や明星小学校との連携・個人成長記録すくすく・安全対策・就学前教育等）をさらに充実させ、内外に発信します。さらに教員研修により各教員が課題意識を持ち、教育力向上を目指します。

(4)心の教育

園児に小動物（熱帯魚、小鳥等）を身近に感じさせることで、興味を持たせ心の安定を図ります。また心の成長を促すために各担任や園長講話では園児に分かりやすく命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝え、保護者に対して幼児期に非認知能力を育成する重要性を説いていきます。

(5)多様な体験

英語遊びではネイティブスピーカーを講師に定期的にレッスンをを行い、英語を身近に感じ、聞いたり発語したりすることで、楽しみながら英語に興味を持てるようにしています。さらに異文化に触れ、興味関心の幅を世界に広げることも意識して実施しています。

外部団体との連携では、遠足にプラネタリウム見学を取り入れ、そのための事前学習として、壁新聞などを作成して、当日子どもたちが十分に興味を持てるよう工夫していきます。他にも外部から講師を呼んで、園児との交流を計り、子どもたちの感性や興味関心が広がるよう計画していきます。

(6)子育て支援

子育て支援として、未就園児対象「ひよこクラス」及び1歳児対象「ぴよぴよクラスファースト」をさらに充実させます。また、2歳児プレスクール「ぴよぴよクラスセカンド」を継続して行い、次年度入園に向けての準備をしていきます。

(7)教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化

危機管理マニュアルに基づいた訓練・研修を継続実施するとともに、個人情報保護についての理解を深め、その留意事項を日常業務に生かしていきます。さらには衛生管理マニュアルおよび学苑の方針に準拠した感染症防止対策を実行していきます。

2-2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画(学年毎の計画)

(1)年少

- A. 発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめ、喜びや感動を友だちや保育者と共有し、
新しい事に興味関心の幅を広げる
- B. 植物を観察し世話をすることで身近に感じ、興味を持つ
- C. 言葉の意味や使い方を知り、自分の思いを言葉で表現し伝えることから、
他者とのかかわり方を知り、楽しさを感じる

(2)年中

- A. 遊びや活動の中で発見や工夫を楽しみながら遊びを進め、自ら考え、新しいことを創造し、
表現する力を伸ばす
- B. 自分の思いを言葉で相手に伝えたり相手の思いに気づく
- C. 集団生活に必要な決まりを守り、友だちと一緒に活動する楽しさを味わう

(1) 年長

- A. 友だちとの共同活動に進んで取り組もうとする
- B. 物事のよし悪しを判断し、自発的に行動する
- C. 就学に向けて、円滑な移行を目指し学びに向かう力を育てる

3-1. 評価項目の達成及び取組状況(全体事業計画)

評価項目	結果	理由
(1) 就学に向けて	A	<p>保護者アンケートより</p> <p>「小学校就学に向けて、学びにつながる意欲が芽生えましたか」</p> <p>全学年の満足度（とてもそう思う 27%・そう思う 48%合計）は 75%であった。昨年度は 78%とほぼ同じ結果となった。</p> <p>現年長の満足度は 85%で、昨年の年中時（74%）と比較すると 11%増加している。</p> <p>年長に対しては小学校教員による「のびのびタイム」でモニターを使用し、「鉛筆の持ち方」「性質の違うもの探し」など行った。戸外でも小学校教員による運動遊びを実施した。JAXA 宇宙教育センターとの連携活動「傘袋ロケットを作って遊ぼう」も評価されたと考える。</p> <p>次年度は、今年度行ってきた活動をさらに発展、継続させ、今年度プロジェクトを組みカリキュラムを体系立てたこと、小学校就学に向けた「なだらかな接続」の研究などを、在園保護者にも周知し充実させていく。</p> <p>「社会生活における望ましい態度や習慣、他者への思いやり、協同の精神が芽生えましたか」</p> <p>全学年で 93%が「とてもそう思う」「そう思う」と回答</p> <p>概ねの保護者が成長を実感している考えられる。</p>
(2) 一貫教育の推進	B	<p>保護者アンケートより</p> <p>「明星小学校に関する明星幼稚園対象の説明会や個別相談会を通じて、明星小学校についてよく知ることができましたか」</p> <p>参加者（109名）の満足度は 97%であった。</p> <p>参加者の内訳</p> <p>年少 24名（36%・回答者 66名）</p> <p>年中 40名（47%・回答者 86名）</p> <p>年長 45名（48%・回答者 93名）</p> <p>明星小学校への興味関心に結び付け、説明会等の参加者を増やすことが課題であり、一貫教育推進を進めるための施策を講じる必要があると考える。</p>
(3) 教育目標達成に向けて	A	<p>ループブック評価を実施し、卒園までの 3 年間の成長を可視化</p> <p>東京都私学財団私立学校研究助成事業に採択され、研究を教員有志でまとめた。また、今年度初めて、2019 年度入園から 2021 年度卒園までの数値を比較できるレーダーチャートを作成し、担任からのコメントをつけて保護者へフィードバックを行った。様々な施策から課題や展望が見えて来た。今後 に生かすべきことが明確となった。</p>

<p>(4) 心の教育</p>	<p>B</p>	<p>保護者アンケートより</p> <p>「園生活において、小動物を身近に感じるか」</p> <p>全学年で 47%となり、前年（66%）から 19%減 登園日数が減る中、Zoom でカメの様子をみせ、名前を募集するなどしたが、幼児は保護者の介助があってオンラインに参加できるため、全園児に周知することは難しかった。また例年クラスで春から夏にかけて飼育した昆虫なども観察する機会が少なかったことがあげられる。</p> <p>「園はお子様に命の大切さ、社会生活、自然現象、数の知識等を伝えられていると思いますか。」</p> <p>全学年で 84%と前年比-3%と概ね同じであり、年中少は 87%.88%と高い数字だが、現年長が昨年（年中時）89%だったのが 78%に減っている。 これは年長で期待していた成長が、コロナ禍において登園機会や行事が中止になった不満があり、保護者の期待通りの成長に至らなかったと考えられる。</p> <p>「幼児期に非認知能力を育成することが重要だと思いますか」</p> <p>全体で 97%の方が「とてもそう思う」「そう思う」と回答 昨年から 4%増えているが、明星幼稚園が非認知能力育成を重要としていることが周知され、期待されて入園してきていることがうかがえる。</p>
<p>(5) 英語遊びや外部団体との連携等、多様な体験</p>	<p>A</p>	<p>保護者アンケートより</p> <p>「英語遊びで英語を身近に感じ、楽しみながら英語に興味を持つようになりましたか」</p> <p>全学年で 79%、年中長で 80%超という結果になったことから、園で行っているネイティブスピーカーによる英語遊びが効果的だということがわかる。具体的な内容としては、アルファベット、会話・挨拶、歌への興味を実感している保護者が 50～60%という結果だった。</p> <p>外部団体との連携活動や年間を通じて体系立てたカリキュラムの接続については今年度は JAXA 宇宙教育センターと年長園児との活動を実施し、園児は宇宙や月、ロケット、宇宙飛行士、等に興味を持ち、プラネタリウム見学につなげることができた。</p>
<p>(6) 子育て支援</p>	<p>B</p>	<p>未就園児クラスや在園の保護者への支援についてはコロナ禍にあって、十分に実施できなかった。しかし Zoom 配信や感染対策、人数制限をしておの実施等工夫して行った。</p>
<p>(7) 教育現場における園児のリスク管理及び個人情報の管理体制強化</p>	<p>A</p>	<p>保護者アンケート結果より</p> <p>「火災・地震・防犯の訓練を実施していることを知っていますか」</p> <p>認知度は 99%</p> <p>「個人情報の保護」</p> <p>認知度は 96%であった。</p>

3-2. 評価項目の達成及び取組状況(学年毎の計画)

評価項目	結果	理由
<p>(1) 年少</p> <p>A.発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめ、喜びや感動を友だちや保育者と共有し、新しい事に興味関心の幅を広げる</p> <p>B.動植物に興味を持ち観察したり、世話をすることで、身近に感じ、興味の幅を広げる</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめる</p> <p>(ルーブリック5月 1.88→年度末 2.64 +0.76)</p> <p>◎入園当初は友だちと関わり合う楽しさを感じられるよう、楽しめるに雰囲気作りに努めた。また子どもたちの成長段階や興味に合わせた玩具を選定し、入れ換えを行い、保育室環境を工夫した。</p> <p>カタツムリパズルや着せ替えパズルなど子どもによってはじっくりと遊びこみ、集中した取り組みや遊びを通して、それまで関わりのなかった友だちと協力して挑戦する姿も見られた。</p> <p>◎2学期は学苑内の散歩へ行ったことから、自然に目を向ける機会が増え、発見することの喜びを感じたり、自然物を使って遊んだりする姿が見られるようになった。室内では子どもたちの様子に合わせ、新しい玩具を取り入れると、遊び方が深まり、互いにアイデアを出し合い、遊びを共有する姿も見られた。</p> <p>手指の巧緻性が発達し、指先を使った遊びが出来るようになり、折り紙の折り図を用意すると基本的な折り方などは自分で折れる子どもが増えた。</p> <p>◎3学期は自由に使える道具(セロハンテープ、はさみ、紙、新聞紙、スズランテープなど)を用意しておく、それらを使って自分のイメージしたものを制作することを楽しんでいた。</p> <p>言葉のやりとりが増えたことで、保育者側の投げかけが無くても自分たちで発想を広げ、発見したことを共有する楽しさを感じていた。</p> <p>1年間を通して子どもたちの成長や状況に合わせ、玩具の入れ替え、素材の提供などの環境設定に努めてきた結果、子どもたちの新たな興味・関心の幅を広げていくことが出来た。</p> <p>→A</p> <p>保護者アンケート結果</p> <p>「発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめ、喜びや感動を友だちや保育者と共有し、新しい事に興味関心の幅を広げていますか」</p> <p>とてもそう思う(52%) そう思う(48%) の計 100%</p> <p>→A</p> <p>○動植物に興味を持ち観察し、世話をする</p> <p>(ルーブリック5月 2.04→年度末 2.41 +0.36)</p> <p>◎プランターで育てていたきゅうり、ミニトマトの生長記録を室内の目につく場所に掲示しておいたことで、普段興味を示さない子どもも写真を見て振り返り、生長を喜ぶことができた。</p>

<p>C.言葉の意味や使い方を知り、自分の思いを言葉で表現し、伝えることから他者とのかかわり方を知り、楽しさを感じる</p>	<p>A</p>	<p>幼稚園で育てた野菜という特別感もあり、家では食べない子どもも喜んで会食していた。</p> <p>命の大切さを知らせることは難しかったが、大切に育てることは目標を達成することが出来た。</p> <p>◎2 学期は昨年度の反省を活かし、子どもの目にしやすい場所で野菜の水栽培を行った。結果、生長を意識し、それぞれの探求心にも繋げることが出来た。</p> <p>また散歩で見つけた自然物に興味を抱き、不思議に感じたことを知りたいと思い、図鑑を使って調べる子どもも増えた。</p> <p>◎3 学期はチューリップ、ヒヤシンスの球根をプランターで育てたが、子どもたちが見てわかる著しい変化が無く、生長がわかりづらかった。一方で生長過程のイラストと見比べたりしながら、少しずつ伸びていく様子に気が付く子どもがいて、自ら水やりをする様子が見られた。</p> <p>また、園庭や身近にある植物を図鑑で調べ、春の学苑内散歩の時の様子を思い出し、木々の変化などに気が付く子どももいた。</p> <p>一年間を通して身近な植物の生長、変化に触れることが出来た。また園庭にある植物や木々、葉の変化などを季節の移り変わりと共に観察することで更なる興味・関心に繋がった。</p> <p>→A</p> <p>保護者アンケート結果</p> <p>「植物を観察し、世話をすることで身近に感じ、興味を持っていますか」</p> <p>とてもそう思う（26%） そう思う（53%） の計 79%</p> <p>→B</p> <p>園での取り組みや成果が保護者に周知できなかったと推察される。</p> <p>○自分の思いを言葉で相手に伝える</p> <p>(ルーブリック 5月 1.71→年度末 2.03 +0.31)</p> <p>◎入園当初は保育者が「まる」「ぼつ」など、わかりやすい言葉を使って物事の良し悪しを伝えた。また、正しい言葉遣いや丁寧な伝え方を知らせることで真似をして使う姿が見られ、自己表現が広がり、気持ちを伝える楽しさを感じていた。</p> <p>遊びや関わり合いが深まっていく中で、トラブルやちょっとした言い争いなども増えたが、小さなトラブルでもクラス全体で考えながら解決していく中で「ごめんね」「いいよ」といった言葉を使ったやりとりも少しずつ出来るようになってきた。</p> <p>◎2 学期は語彙が増え、友だちとの会話のやり取りを楽しんでいたが、未だ上手く伝えられない場面も多く、保育者が思いを汲み取り、代弁しながら、正しい言葉や伝え方を知らせてきた。徐々に互いの思いを分かり合える喜びも感じてきているが、言葉の具体的な意味をより詳しく知らせていく必要があった。</p> <p>◎3 学期は子どもたちのトラブルに介入しすぎず、自分たちで解決できるような援助を心掛けた。その結果、自分たちで解決できることも増え、伝えることや表現すること</p>
--	----------	--

<p>(2) 年中 A.遊びや活動の中で発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめる、自ら考え新しいことを創造し、表現する力を伸ばす</p>	<p>A</p>	<p>の楽しさを感じていた。 安心して過ごすことで自分を受け入れてもらえる心地よさを感じ、友だち関係も深まったことから互いに言葉を教え合う姿も見られた。 日常生活で使う挨拶やお礼などはこちらが先に言うのではなく、子どもたちの発語を待ち、自ら気が付けるようにしてきた。 様々な出来事を経験して、言葉の使い方・意味を理解していき、自分の思いを受け止めてもらえるようになったことから、相手の思いにも気が付けるようになっていった。一方で場の雰囲気によっては、恥ずかしさからか、言葉で思いを表現できないこともある。</p> <p>→A</p> <p>保護者アンケート結果 「言葉の意味や使い方を知り、自分の思いを言葉で表現し伝えることから、他者とのかわり方を知り、楽しさを感じていますか」 とてもそう思う（41％） そう思う（55％） の計 96％</p> <p>→A</p> <p>○発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめる (ルーブリック 年度当初 2.31→ 2月 2.79 +0.48)</p> <p>◎年間を通して、野菜や稲、植物の生長を観察し、個人持ちの図鑑を持って学苑内の散歩に行くなど、自然に親しむきっかけを作るようにした。更に総合絵本を活用し、発見を楽しんだり少しの変化に気付いたりする働きかけを心がけた。 最初は気付けなかったが、2学期には友だちの発見の声に耳を傾けたり、担任の声掛けに応じたりするなどし、発見を楽しむことができるようになった。 また、友だちのしていることに興味を持ち、一緒にやってみようとする意識が芽生えてきた。初めてのことに積極的になれない子どもも、毎日の生活の中で友だち関係が大きく広がり、自信を持って過ごせるようになり、「やってみよう」「失敗しても大丈夫」という気持ちを持って挑戦することが、少しずつではあるができるようになった。友だち同士の絆が深まるとその中で遊びを発展させ、考えを出し合いながら遊びを進めることができるようになり、新しい遊びを生み出したり、工夫したりする遊び方が見られるようになった。 3学期には、戸外での発見や工夫もみられるようになり、自然の変化や季節ならではの自然物(虫、霜、植物等)に目を向けられるようになった。</p> <p>→B</p> <p>保護者アンケート結果 「遊びや活動の中で発見や工夫を楽しみながら遊びをすすめる、自ら考え新しいことを創造し、表現する力を伸ばしていますか」 とてもそう思う（51％） そう思う（42％） の計 93％</p> <p>→A</p>
---	----------	--

<p>B.自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付く</p>	<p>A</p>	<p>○自分の思いを言葉で相手に伝える (ルーブリック 年度当初 2.77 → 2月 2.66 -0.11)</p> <p>◎年少時にも重点としてあったが、年中での更なる成長を期待して設定した。担任との信頼関係を築き、担任が模範となる生活をする中で、友だち同士でも思いを伝え合い、受け入れ合いながら生活が出来ることを目指した。</p> <p>担任との信頼関係が出来る、担任には自分の思いや希望などを言葉で伝えられるようになってきた。友だちとの絆が深まるよう、友だち同士でも言葉で伝えあうことを促した。また、自信を持って発表できたり発信できたりする環境設定を心掛け、人前で発表、発言する機会を増やすようにした。運動会や発表会等の行事を通して、成功体験として経験すできたことが更に自信につながった。</p> <p>クラスの団結が出来ると、相手を思いやろうとする気持ちも芽生え、相手にも思いがあることに気が付くことが出来るようになった。3学期後半には自分の思いばかりを押し付けるのではなく、相手の思いも分かろうとしたり、自分の思いも分かってもらえるように努力し伝えようとしたりする姿も見られるようになった。</p> <p>友だちとの関りが深くなり、その分トラブルは増えたが、自分たちで解決しようとしたり、みんなで考える時間を設けることでお互いに意見を出し合い、解決していく姿が見られたりするようになってきている。更なる成長に期待したい。</p> <p>→B 保護者アンケート結果 「自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いていますか」 とてもそう思う（29%） そう思う（61%） の計 90%</p> <p>→A</p>
<p>集団生活に必要な決まりを守り、友だちと一緒に活動する楽しさを味わう</p>	<p>A</p>	<p>○集団生活に必要なルールや決まりを守る (ルーブリック 年度当初 2.71 → 2月 2.91 +0.20)</p> <p>◎年少時には分散登園も多く、幼稚園に慣れることに重きを置いてきたが、進級し、自信を持って生活を進めてほしいとの願いから設定した。</p> <p>幼稚園に慣れてきたこともあり、ルールが複雑になっていることがあったので再確認し、集団生活だからこそそのルールの大切さを伝えるようにした。</p> <p>ルールを理解していても幼さから守ることができない姿も見られたので、その都度説明し、守れるよう指導を続けることで少しずつ意識して生活できるようになった。</p> <p>生活の仕方が分かり、自信を持って生活が進められるようになると集団生活の一員である自覚を持つことができるようになり、友だちと一緒に生活することや活動することを大いに楽しむことが出来た。</p> <p>その反面、友だちと一緒にいることが楽しくなりすぎてしまい、気が大きくなりすぎてしまうなど、ルールが守れないこともまだ多い。</p> <p>クラス全体や個別の指導を通し、決まりを守る大切さを伝え、年中組の1年間で、必要最低限のルールを身につけることができたので、更に進んでルールを守る</p>

		<p>など、年長児として手本になれるようになってほしい。</p> <p>→A</p> <p>保護者アンケート結果</p> <p>「集団生活に必要な決まりを守り、友だちと一緒に活動する楽しさを味わっていますか」</p> <p>とてもそう思う（48%） そう思う（46%） の計 94%</p> <p>→A</p>
<p>(3) 年長 友だちとの共同活動 に進んで取り組もうと する。</p> <p>物事の良し悪しを判 断し、自発的に行動 する。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>○友だちとの共同活動に進んで取り組もうとする。</p> <p>(ループブック 年度当初 3.04→年度末 3.14 +0.10)</p> <p>◎“なんでも発表会”を定期的に行い、ピアノやなわとびなど自分の得意な事を披露する場を設けた。1 学期から行うことで友だちの発表を見たり、聞いたりすることが刺激となり、クラスづくりの良いきっかけとなった。</p> <p>学年の担任で学期終わりにクラスの取り組み方法など、意見交換の場を設け連携を図ることで、友だちの前で自己表現をし、苦手な事にも“やってみよう”とする挑戦意欲を1 年間で育むことが出来た。</p> <p>◎星まつりでは協同制作としてクラスごとに七夕飾りを制作した。日本の伝統文化である七夕の意味を知らせながら、どのような飾りを作るか話し合い、友だちと一緒に協力して1 つのものを作り上げる楽しさや、出来上がった後の充実感、達成感を味わうことが出来た。また、他クラスの飾りを見ることで、大いに刺激を受けていた。</p> <p>◎日常の園生活ではお当番活動で、担任の作業の手伝いをした。また、郵便屋さんごっこ（3 学期）でハガキの配達するなど、クラスの代表として仕事をすることで責任感を育てる事に繋がった。</p> <p>以上の結果から、年間を通じ友だちの良さを見つけ、理解し合う場を設けたことで様々な活動や行事、クラスや学年の共同活動に進んで取り組もうとする意欲や姿勢が見られた。</p> <p>→B</p> <p>保護者アンケート結果</p> <p>「友だちとの共同活動に進んで取り組もうとしていますか」</p> <p>とてもそう思う（44%） そう思う（50%） の計 94%</p> <p>→A</p> <p>○物事の良し悪しを判断し、自発的に行動する。</p> <p>(ループブック年度当初 2.88→年度末 3.00 +0.12)</p> <p>◎年中時に親しんでいた“忍者ごっこ”を継続させ、廊下の貼り紙イラストに忍者を使用するなど、視覚的に日常生活のルールを子どもたちに知らせていった。</p> <p>クラス全員で意見を出し合いながら生活を振り返る場を1 学期から設定し、クラス全体で意識が持てるようクラス目標を決めた。</p> <p>“ふわふわ言葉”（言われてうれしい言葉）を考えて保育室に貼り出したりするなど</p>

<p>就学に向けて円滑な移行を目指し、学びに向かう力を育てる</p>	<p>A</p>	<p>自分たちで考え、自発的に行動が出来るよう意見を出し合うことで、集団としてのルールや決まりを守る大切さを個々に感じる事が出来た。</p> <p>◎ 2 学期になると、園生活のきまりやルールを理解している反面、危険な行動をする場面が見られたが、運動会、発表会などの行事を通し、約束を守りながらクラス全員で協力する充実感や達成感を大いに味わった。</p> <p>担任も日常生活の中で、一人ひとりの良さを認め、何が良かったのかを具体的に言葉で示すことで、個人差はまだ見られ、自発的な行動面においては課題が残る面もあるが、年間を通し、自分たちで考え、行動する気持ちに繋げることが出来た。</p> <p>→B</p> <p>保護者アンケート結果 「物事のよし悪しを判断し、自発的に行動していますか。」 とてもそう思う（31%） そう思う（58%） の計 89%</p> <p>→A</p> <p>○就学に向けて円滑な移行を目指し、学びに向かう力を育てる。</p> <p>◎ 小学校就学への円滑な移行のため、年度初めから計画を立て、小学校教諭と連携を図り『のびのびタイム』の時間を設けた。鉛筆 1 本を個人持ちとし、活動内で正しい持ち方や鉛筆を使った教材を使用することで、書くことに興味・関心を広げ、小学校に対しての期待を持つ良い経験の場となった。</p> <p>保護者にも活動内容やねらい、活動の画像をメールで知らせ、“見える保育”を実践することが出来た。</p> <p>3 学期の運動あそびでは、苦手な運動にも挑戦する姿が見られ、就学も近くなっていた事もあり、活動の楽しさから小学校就学に対して前向きなイメージを持つ子が増えた。</p> <p>◎ 2 学期は JAXA 宇宙教育センターと連携活動を行い、傘袋ロケットの体験活動を通し、宇宙に対しての興味・関心を広げることが出来た。活動後も 2 階廊下や子どもたちの目につく場所に、星座や季節の雲の名称など、身近にある変化や不思議に気づけるよう貼り紙を掲示し、3 学期にはクラスごとに月齢カレンダーを購入した。その結果、「〇月の満月の日はいつ？ 名前は？」など自分たちで疑問を持ち、積極的に調べようとする姿が見られ、自ら学ぼうとする姿勢が大いに見られた。</p> <p>これらの観点から就学に対しての円滑な意向を目指し、学びに向かう力は大きく達成できたと考える。</p> <p>→A</p> <p>保護者アンケート結果 「就学に向けて円滑な移行を目指し、学びに向かう力が育っていますか」 とてもそう思う（35%） そう思う（43%） の計 78%</p> <p>→B</p>
------------------------------------	----------	---

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
A	コロナ禍 2 年目となったが、教員は研究・研修につとめ、感染防止対策を第一に可能な範囲で目標とした計画を実施できた。コロナ禍 2 年目と最終学年が重なった年長保護者からの満足度は他学年に比べ低い項目もいくつかあるが、全体的に評価に値すると思う。

◎「3. 4.」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
新たに体系立てたカリキュラムの実施	・2023 年度に向けて、年度当初からプロジェクトを組み、研修・研究を重ねてきた就学まで体系立てたカリキュラムを実施していく。また明星小学校就学に向けての「なだらかな接続」と「ルーブリック評価」について研究を継続し、さらに施策を講じ、課題点を洗い出し、オリジナリティあるカリキュラムとして構築していきたい。
一貫教育の推進 心の教育 子育て支援の充実	With コロナを念頭に今年度 B 評価とした項目については充実した施策が実行できるよう検討していく必要がある。

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。